

2023年

3月18日(土)

18:00～19:00

Zoomオンライン開催

参加無料

D X時代の
主役は、
情報システム
アーキテクト。

2023年度ADPISA-H説明会

ADPISAとは

青山・情報システムアーキテクト育成プログラム Aoyama Development Program for Information Systems Architect

- 特徴

- 青山学院大学が提供する社会人向けの教育プログラム
- 2017年度に発足し、2019年度から講義開催
- 学校教育法で定められた履修証明プログラム、公式な履歴書に履歴として記載可能
- さらに文科省、厚労省から認定済み



Brush up Program
for professional

ADPISAの教育プログラム構成

- ISアーキテクトの育成を最終目標に、3つの履修証明プログラムを設置

		2023年度	受講想定者
ハイ (高度IT人材)	レベル5	ADPISA-H	• 企業でのDXプログラムの主役になりたい人
	レベル4		
ミドル	レベル3	ADPISA-M	• IT業界でITの知識はあるが、業務に活かす方法を身に付け、自分でキャリアを開きたい人
	レベル2		
エントリ	レベル1	ADPISA-E	• ユーザ企業に勤め、これまでITを学んだ経験はないが、今後業務等で必要になる人 (主に女性対象)

2023年度のADPISAのスケジュール

- ADPISA-H、ADPISA-E、ADPISA-Mの順番で実施予定

年	2023年（令和4年）										2024年		
月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
ADPISA H	受講生 募集		プログラム実施 5月13日～8月26日										
ADPISA E					受講生 募集		プログラム実施 9月～12月						
ADPISA M						受講生 募集		プログラム実施 10月～1月					

説明会のコンテンツ

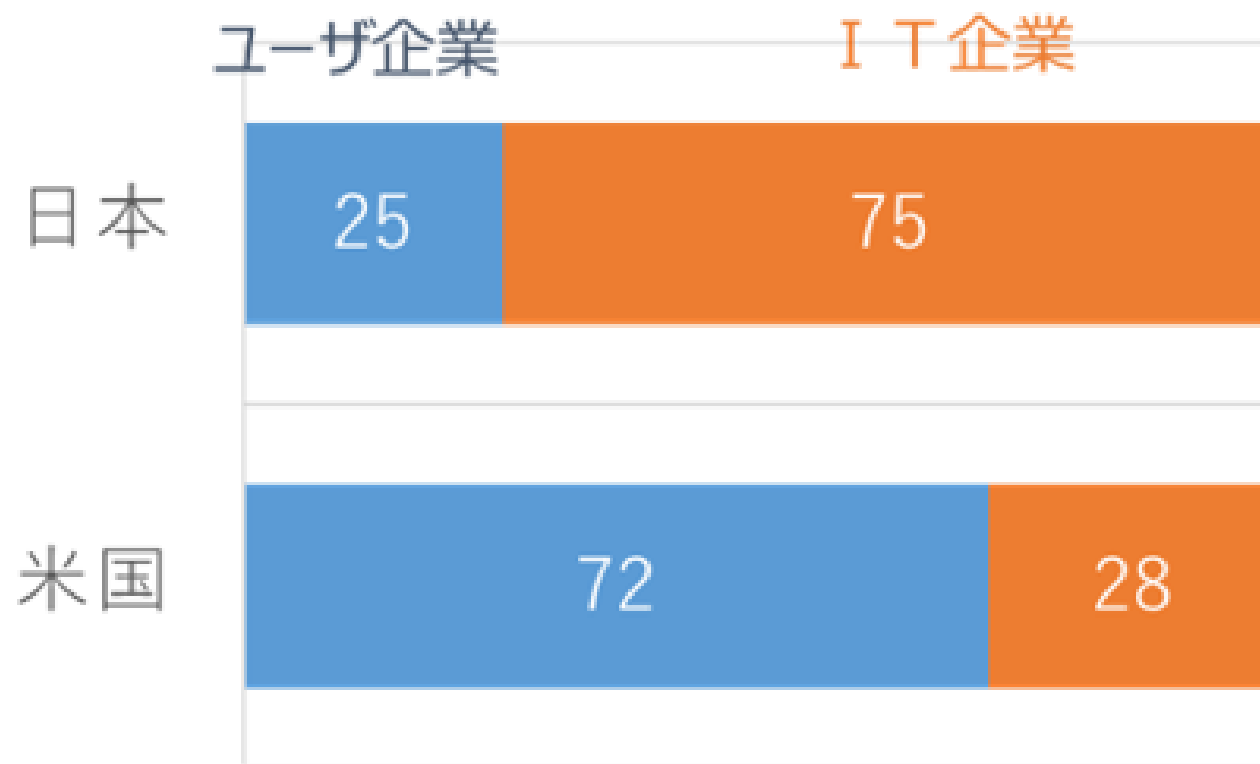
1. IT業界の動向と情報人材育成の課題
2. ADPISA、ADPISA-Hの紹介
3. 2023年度ADPISA-H(ADPISA6)の募集要項
4. Q&A

セクション1：
IT業界の動向と
情報人材育成の課題

日米の情報産業の差 (1)

- 米国では自社開発が多い
 - IT技術者の所属先もユーザ企業が大半

IT技術者の所属先 日米の比較(2011)



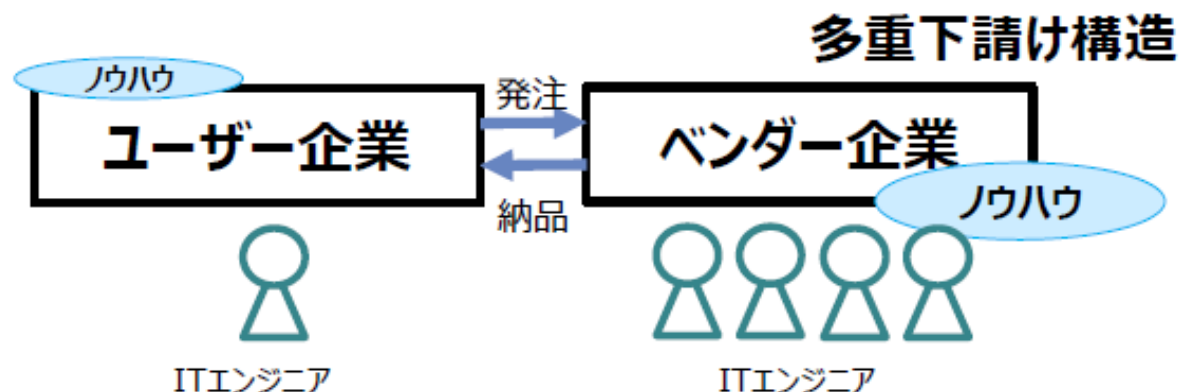
出典：「グローバル化を支えるIT人材確保・育成施策に関する調査」概要報告書 2011年 3月 (IPA)

日米の情報産業の差 (2)

- 日本の業務系はほとんど、ITベンダへの発注
 - 組み込み系も、請負契約の場合が多い。
- 日本では多重下請け構造

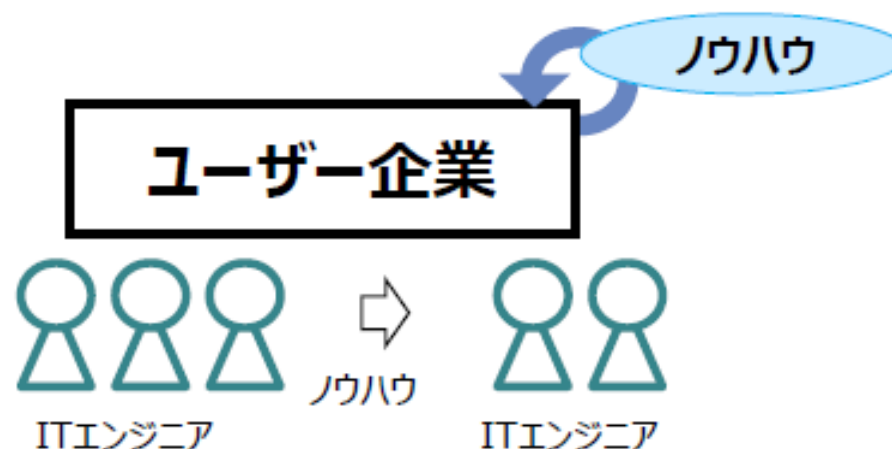
出典：DXレポート
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_transformation/pdf/20180907_02.pdf

我が国の場合



- ITエンジニアがベンダー企業に多い
- ノウハウがユーザー企業側に残りづらい
- 現場で作業をしている下請け企業にノウハウが蓄積

諸外国の場合



- ITエンジニアがユーザー企業に多い
- ノウハウが社内に蓄積しやすい
- 他のエンジニアへのノウハウの伝播が容易

DXレポート 「2025年の崖」 の問題認識

日本の情報システム業界、2025年には

- 稼働21年以上の基幹システムが60%
- 著名パッケージが続々サポート終了
- セキュリティ等のリスクの高まり
- →システム維持管理費がIT予算の90%以上

結果として

- 市場の変化に対応して、ビジネス・モデルを柔軟・迅速に変更できない
- 2025年以降、12兆円／年の経済損失

IT人材への インパクト

DXの実現

- DX:デジタルトランスフォーメーション
- 価値創造のIT予算を20%→40%
- IT人材のユーザ企業比率を25%→50%

結果として

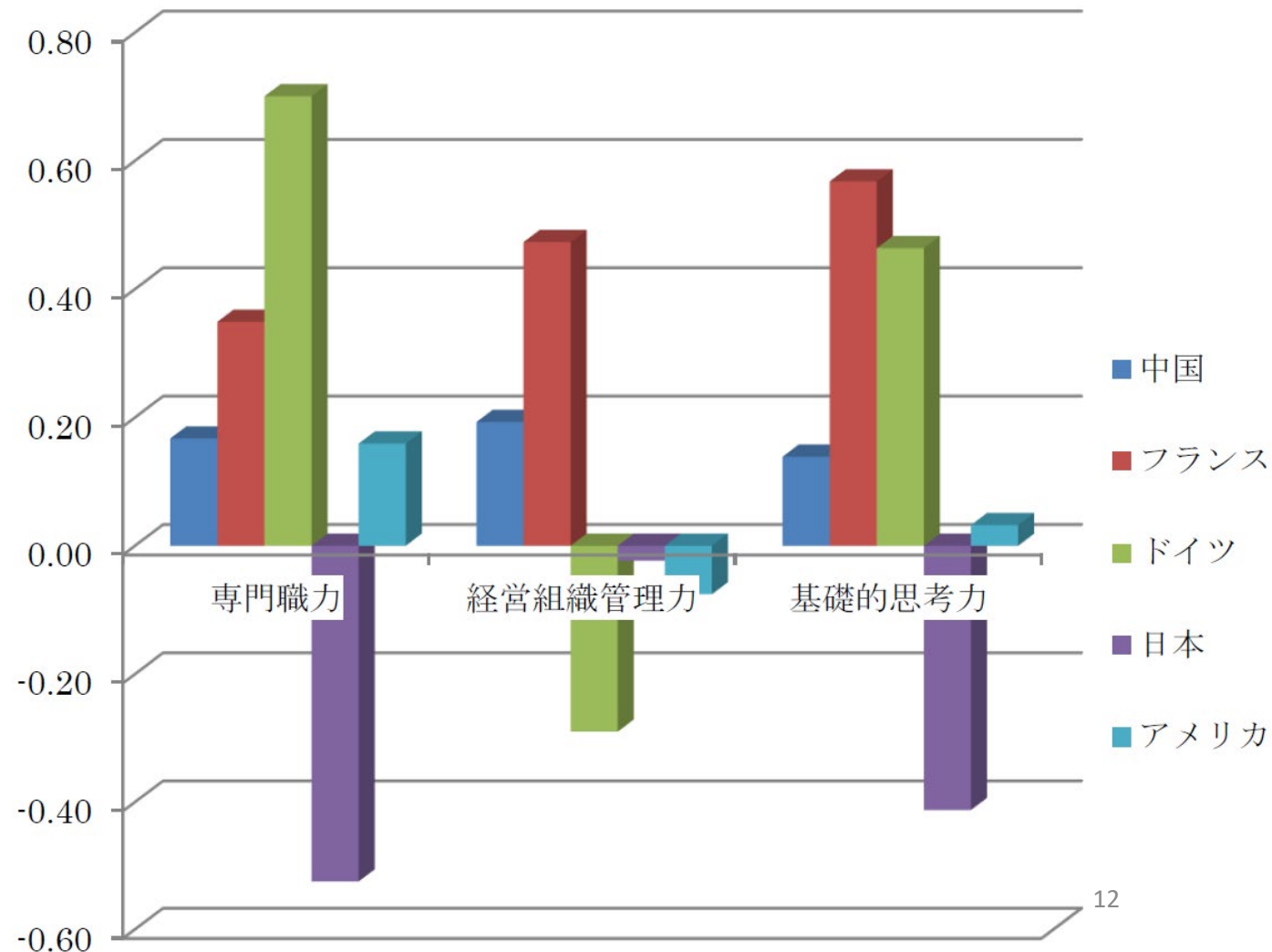
- 価値創造できる人材が必要
- 国内のIT人材数は100万人強なので、
数10万人レベルの人材流動が必要

日本の情報システム人材の状況（1）

- 職務遂行能力が低い
 - 専門職力・基礎的思考力の両面で競争優位でない
- 個人の自覚・モチベーションが低い
 - 自己啓発をしない人が他国と比べて極めて高い

参考：職務遂行能力の5カ国比較

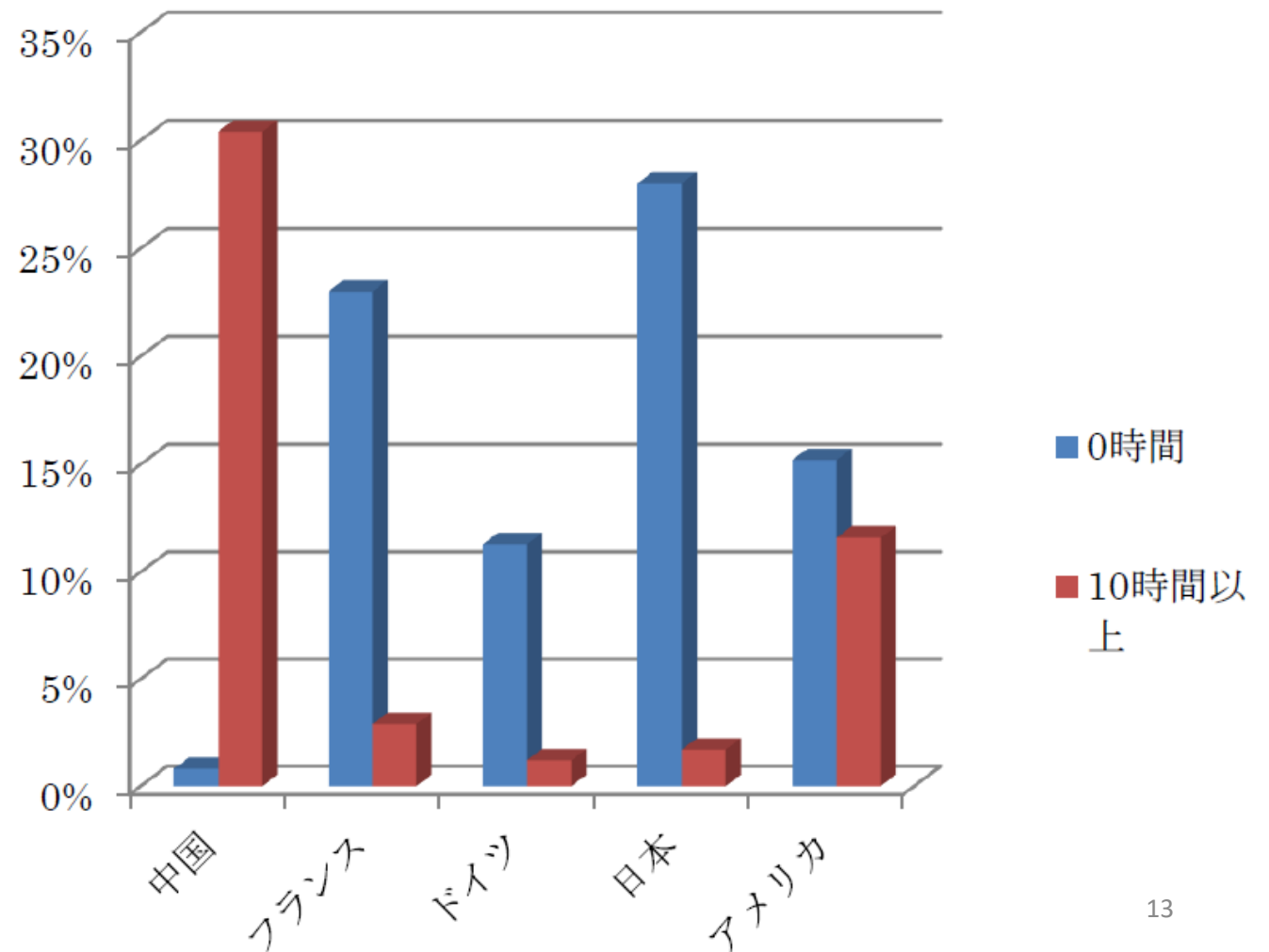
- 三つの能力変数
専門職力・
経営組織管理力・
基礎的思考力
の5ヶ国比較



出典：Robert E.Cole, 中田喜文:
"The Japanese Software Industry:
What Went Wrong and What Can
We Learn From It?"

参考：日本における自己啓発の実態

- 週当たりの自己啓発のための時間が
0時間および10時間以上グループの割合
(%)



出典：Robert E.Cole, 中田喜文:
"The Japanese Software Industry: What
Went Wrong and What Can We Learn
From It?"

学校での情報教育の動向（1）

- 学校での教育が変わりつつある
 - 従来は、新卒者の即戦力が不十分
 - これまでの学校教育は、知識・スキル偏重。企業は職務遂行能力（コンピテンシー）を求める
 - 学校教育、特に情報の分野が抜本的に変わりつつあるが知名度が低い

学校での情報教育の動向（2）

- 教育の情報化ではなく、情報に関連した教育の動向
- 各教育での情報の新しい取り組み
 - 初等教育
 - 「プログラミング的思考」を全科目に適用
 - Scratchをはじめとしたプログラミング教育も急速に普及
 - 中等教育
 - 中学校、高等学校でのプログラミング教育必修化
 - 高等学校で「情報」科目の再編。「情報Ⅰ」の必修化

学校での情報教育の動向（3）

- 各教育での情報の新しい取り組み（つづき）
 - 高等教育
 - 入試科目として「情報」が採用される方向
 - 情報系人材を育成するための（従来では考えられないような）国際的なカリキュラム標準が出現（次ページ参照）
 - 日本でも次期カリキュラムで対応が必要になってくる。
 - 生涯教育
 - 生涯教育、学び直し等の取り組み（文科省の履修証明制度等）、補助（厚労省の訓練給付金等）の知名度が低く、普及していない

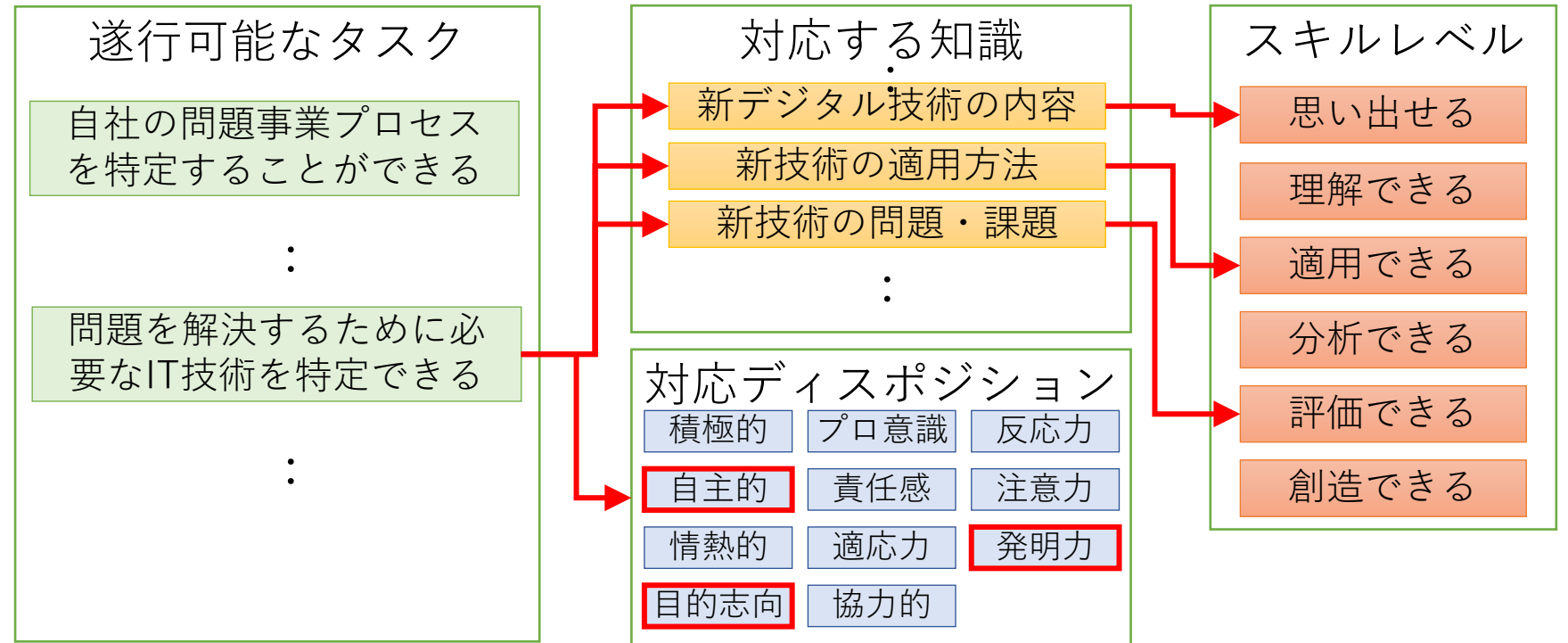
参考：大学での国際標準カリキュラムの一例 IS2020のDigital Innovation

Digital Innovation領域

Digital Innovation 人材類型

「自社の事業の仕組み」、「変革方法」、「変革を実現するためのIT技術」をそれぞれ理解するとともに、主体的に企画実行し、企業をチェンジできる人材である。

Digital Innovation人材の職務遂行能力(コンピテンシー)



出典：IS 2020 Final Report

<https://is2020.hosting2.acm.org/wp-content/uploads/2021/02/IS-2020-Final-Report.pdf>

情報システム人材育成の今後の課題

- 問題の大部分は「情報システム人材育成の問題」というよりも「日本における人材育成の問題」
- すでに社会人になっている人材の問題
 - 2025年に求められるIT人材は大きく変わってくる
 - 5～10年後には、これまでの情報教育とはレベルの違う学校教育を受けた若者が社会に入り始める。
- (結局) 個人の意識変革が必要不可欠
 - 意識高い系の人間がもっと増加しないとダメ

セクション 2： ISアーキテクトの育成に 必要な教育とは何か？

ISアーキテクトの育成に必要な課題を青学大の社会人向け教育プログラム
ADPISAの実践を通して考える

あらすじ

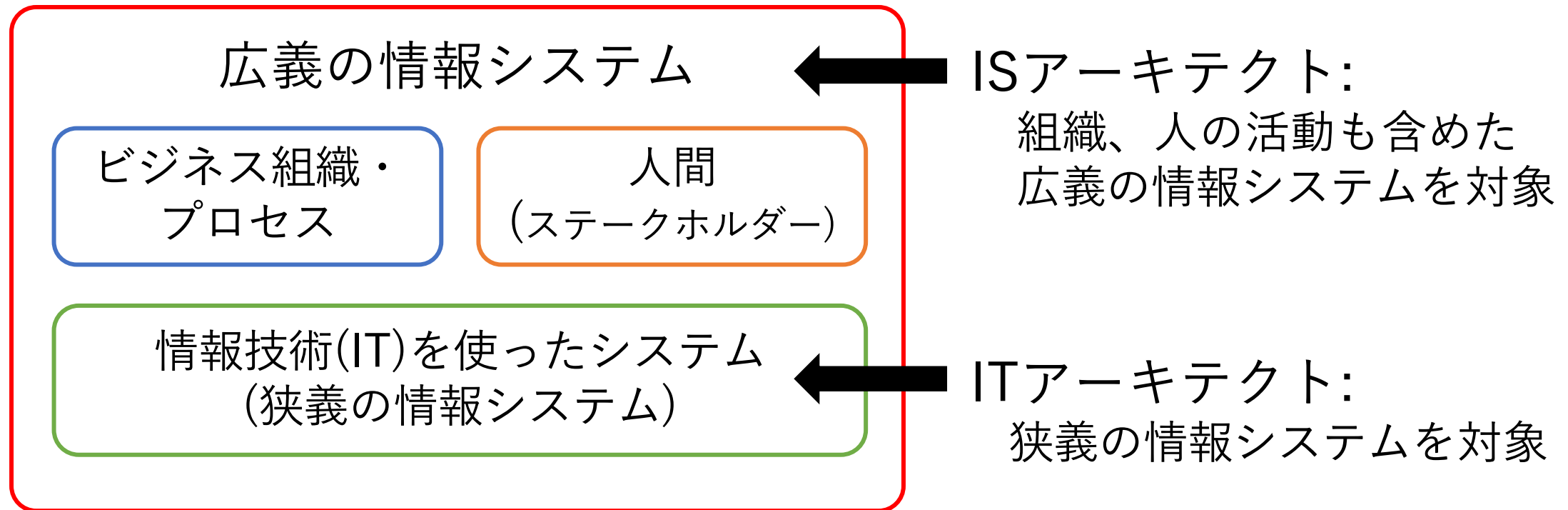
- ISアーキテクトを育成するため必要な教育を考える
 - ISアーキテクトは従来のITアーキテクトとどこが異なるのか。
 - 従来の企業教育や大学教育とどのような差異があるのか。
- 「青山・情報システムアーキテクト育成プログラム (ADPISA)」の紹介

ISアーキテクトの特徴

育成すべきISアーキテクトとはどのような特徴があるのか？

ビジネスが対象。ITは手段。

- ISアーキテクトが仕事の対象とするのは、組織、プロセス、人間、組織外ステークホルダーも含めた広義の情報システム



組織・人・ICTを動かすことができる

- 情報システムを活用して広義の情報システムを構築し、組織をチェンジできる。
- プログラム/プロジェクトを計画、実行、改善、振り返り等ができる。
- 継続的に創造的な知識を生み出し続けられる組織を作り上げる。
- 知識・スキルだけでなく、職務遂行能力（コンピテンシー）を持っている。

価値をマネジメントできる

- プログラムマネジメントができる
 - 決められたものを作るのではなく、決められた期間・コストでより高い**価値**を作り込むことができる。
 - プロジェクトよりもより複雑なステークホルダとの**コミュニケーション**や**リスク**などのマネジメントができる。

ADPISAの特長

青山学院大学が実施してる社会人向けの履修証明プログラムADPISAの特長と今回募集するADPISA-Hを紹介します。

*1

ADPISA-Hの特長(1) ISアーキテクトを育成

- ビジネス組織、人間、組織外ステークホルダーも含めた、広義の情報システムを対象とします。
- 組織の活動、人の活動も含めた活動の職務遂行能力（コンピテンシー）を身につけます。

広義の情報システム
(ビジネスシステム)

ビジネス組織、
プロセス

人間
(ステークホルダー)

情報技術(IT)を使ったシステム
(狭義の情報システム)

ISアーキテクト:
組織、人の活動も含めた
広義の情報システムを対象

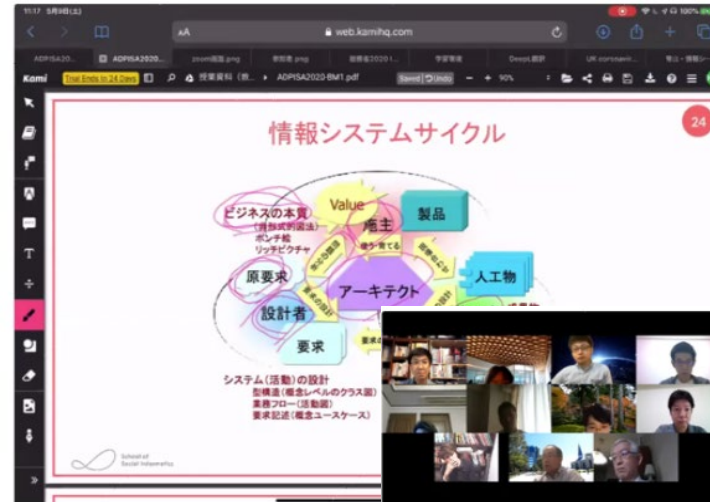
ITアーキテクト:
(狭義の) 情報システムを
対象

ADPISA-Hの特長 (2) 個人に最適な人材育成

- 受講者の個人個人に最適な人材育成
 - 個人個人が、ADPISA受講後も「学びを継続」できることを、可能にする。
- 特徴
 - 専門家がキャリア、技術の両面から受講生をコーチング
 - ADPISA期間だけでなく、その後も見据えた中期的な目標と、ADPISA受講期間中の最適な科目選定やUdemy科目のラーニングパスの設定を支援する。
 - ADPISA-H受講者*1は2023年度Udemy Businessの全科目を無料で受講可能

ADPISA-Hの特長（3）柔軟な講義形式

- 対面講義とオンライン講義を組み合わせ実施
 - 対面講義は、都内から通学に便利な青山学院大学青山キャンパスで実施します。
 - ADPISAのオンライン講義は対面講義の代替/補助ではなく、オンラインならではの教育効果を実現します。



ADPISA-Hの特長（４）履修証明プログラム

- 履修証明でキャリアアップを図ることが可能
 - 60H/120Hという短時間履修で公的文書である履修証明書を取得可能
- 文科省厚労省から認定済みの教育プログラム
 - 文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP: Brush up Program for professional）」に認定。
 - 厚生労働省の教育訓練給付金対象の教育プログラム（特定一般教育訓練給付金、専門実践教育訓練給付金）に認定



**Brush up Program
for professional**

ADPISA-Hの特長(5) 実務経験の豊富な講師陣

- <https://adpisa.si.aoyama.ac.jp/adpisa-h/index.html#lecturers>

講師紹介

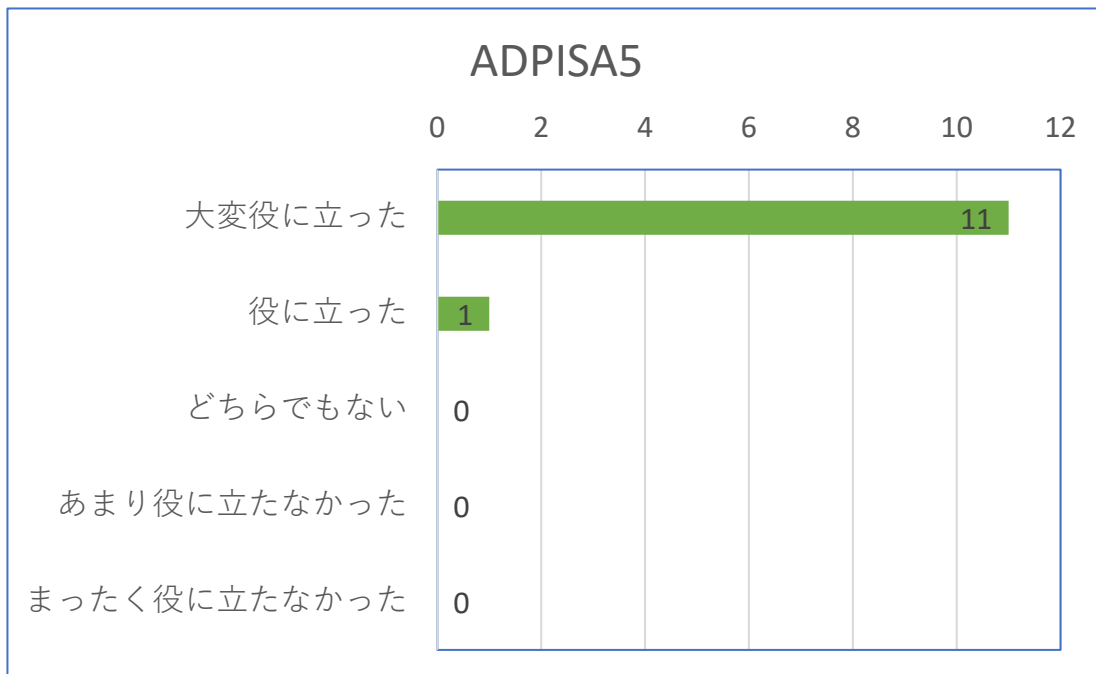
様々な専門領域で活躍する第一人者の講義を受講できます。

<p>Profile</p>  <p>青山学院大学社会情報学部 学部長・教授 宮川 裕之</p> <p>青山学院大学理工学部、同研究科修了。文教大学情報学部を経て2008年より青山学院大学社会情報学部教授、2013年より情報メディアセンター所長、2018年より同学部長。情報処理学会情報システム教育委員会委員、情報システム学会特別顧問。</p>	<p>Profile</p>  <p>東京都立産業技術大学院大 学名誉教授 戸沢 義夫</p> <p>1979年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程単位取得満期退学、理学修士。1979年より日本アイ・ビー・エム勤務。技術理事。コンサルティンググループ情報戦略プラクティスなどを経て、2006年より産業技術大学院大学教授、2017年より同大学名誉教授。</p>
<p>Profile</p>  <p>青山学院大学社会情報学研 究科プロジェクト教授 (株)プライド 取締役常務 執行役員 三輪 一郎</p>	<p>Profile</p>  <p>東京海上日動システムズ (株)ITインフラサービス本 部インフラソリューション 四部長 平川 歩</p>

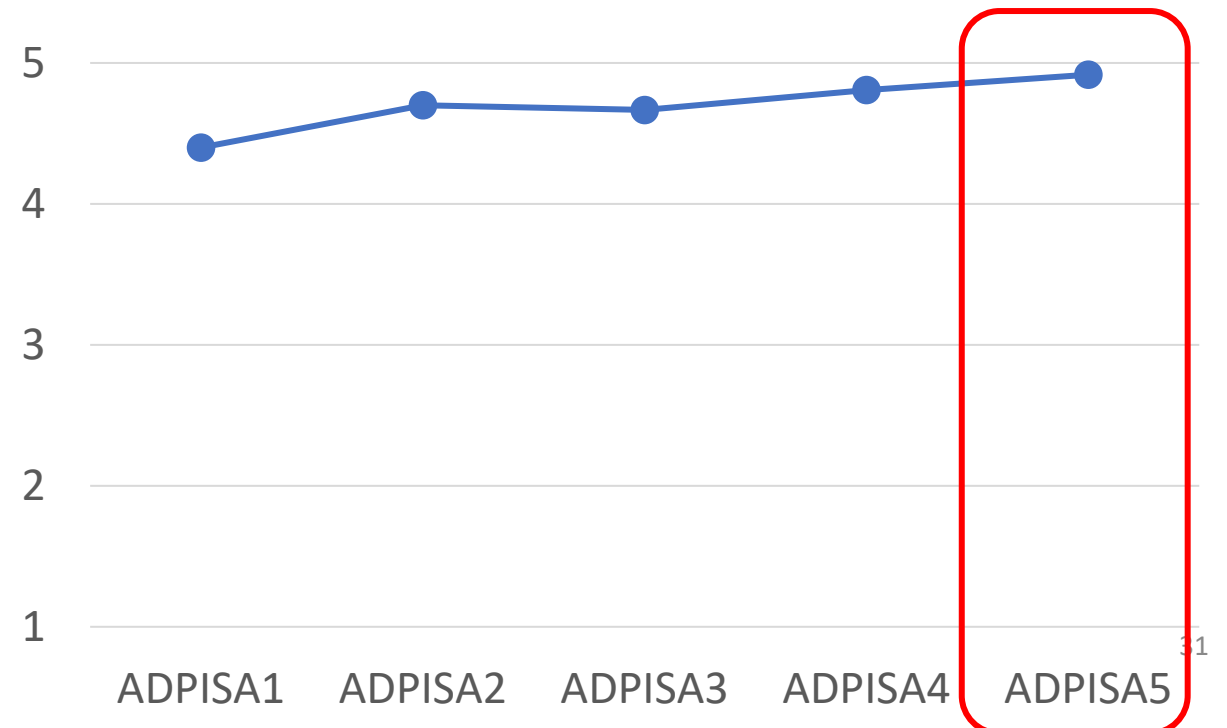
2022年度のADPISA-H(ADPISA5)評価

- 受講生全21名中、履修証明対象者12名の評価
- 12名中11名が5段階評価で5、全体平均で4.9という高評価

ADPISA 5



ADPISA5総合満足度



ADPISAに対する受講者の声

Voice

受講生からの声

ADPISAというプログラムを経て、どんなことが得られたのか、
経歴や年齢もさまざまな受講生の方々からの声を聞いて、
実際にADPISAを経て得られるもの、体感できることを感じてください。



仲間の受講生のがんばりが励みになった

大学で学ぶ、という経験ができて
豊かな気持ちになれた

人づき合いが得意でなかったが、
いろんな人と知り合えてうれしかった

たくさんの人の力で講座が開講されていて
ありがたい気持ちでいっぱい

自己肯定感が低かった自分が
ポジティブな気持ちになれた

停滞していた自分が動きだした

知識を学ぶことで
自分の気持ちが整理できた

チャレンジしたいことが見えてきた

組織の中で立場の異なる人と
いっしょに進むイメージができた

人生のターニングポイントになった

今までの人生に想いを巡らせながら
将来を考えることができた

恵まれた環境の中で
仲間の受講生と苦楽を共にできた

仲間の受講生が面白い人ばかりで多幸感があった

10年後の自分が見つかった。 人の役に立ちたいと思う

井の中のかわずであったことに気づいた

学んだことが社内だけでなく
社外でも役にたった

実務経験がある先生が多く、
こんな講義を受けられてすごいと思った

自己反省することが多かったが、
学ぶことの楽しさがそれを上回った

学習に必要なパワーが継続するように、
手厚くサポートしてくれた

講師が粘り強く教えてくれて、
わからないことを遠慮なく質問することができた。

IT技術者でなくても 学びが多かった

苦手意識と抵抗感があったが
対象が身近で興味を持てる対象に変わった

親が自分のために努力するところを
子どもに見せることができた

いろいろわかるようになって楽しい、
がんばりたい、という気持ちがわいてきた

個別の質問に対して
親身になって回答していただいた

このセクションまとめ

- ISアーキテクトとは
 - 組織、プロセス、人間、組織外ステークホルダーも含めた広義の情報システムを対象
 - 解決する問題は、本質的に明確に定義できない。自分で問題を発見し、解決できることが求められる。
 - 知識/スキルだけでなく職務遂行能力（コンピテンシー）を持ち、組織・人・ICTを動かすことができる
- 青学大でのISアーキテクト育成プログラムADPISA
 - 2019年度から開催している履修証明プログラム
 - ITも使って、人、組織も含めた広義の情報システムを構築できる人材育成を目指した教育
 - 受講者の個人個人に最適な人材育成、経験豊富な講師陣により、受講生の評価も高い

セクション 3： 2023年度ADPISA-Hの募集要項

ADPISA-Hの科目構成（全157.5時間）

ID	種別	科目名（網掛けは仮称）	講師	時間	実施予定日	自習	備考
A	必修	情報システム入門	宮川	15.0	5/20,5/27		
C	必修	チェンジを推進するビジネスアナリシス	戸沢	15.0	5/13,6/21, 7/22	○	オンデマンド学習、 実地演習あり
D	選択	セキュアな企業と情報システム	平川	15.0	7/1,7/8		
E	選択	データサイエンスを活用した情報システム構築	寺尾 居駒	22.5	6/28,7/12, 7/26,8/5	○	オンデマンド学習あり
F	必修	情報システムのプログラムマネジメント	初田	7.5	6/3		
G	選択	プロジェクトを成功させるための見積もり技術	初田	7.5	6/10		
I	選択	DXを加速し、チェンジを生み出すリーダーシップ	広石	15.0	7/15,7/29		
J	選択	企業のアジリティを生むIS投資計画	三輪	7.5	6/24		
K	選択	アジャイル開発を成功させる組織マネジメント	居駒	7.5	6/17		
Y	選択	選択科目群（Udemy）	居駒	30.0	5/13～8/26	○	指定されたUdemy科目を受講。 受講時間数を認定
Z	必修	情報システムアーキテクト実践研究	宮川 戸沢	15.0	8/26	○	実地演習あり

2023年度ADPISA-H(ADPISA6)募集要項


	募集要項
概要	新たな価値を創生できる広義の情報システムを企画できる人材育成。
開催月	2023/5/20～2023/8/26（5/13にキックオフ）
募集	2023/3/11～3/31
講義実施日	水曜日夜間（オンラインのみ）、土曜日（対面、オンライン）
時間数	157.5時間
定員	20名（応募資料により選考予定）
受講料	次ページ
学歴・職歴	大学を卒業した者、またはそれに相当する者。就労未経験者、新社会人は対象外。
IT経験	ITに関連する業務経験があること。ただし、ITそのものの業務（SE、プログラマ等）経験があってもなくても良い（ITを使用する営業職や事業企画職等の方もOK）
取得資格	青山学院大学が発行する履修証明
受講形態	対面＋オンライン（リアルタイム、オンデマンド）
Webサイト	ADPISA全体 ： https://adpisa.si.aoyama.ac.jp/ ADPISA-H ： https://adpisa.si.aoyama.ac.jp/adpisa-h/

ADPISA-Hの来年度受講料

- 一科目を単独に受講する場合 60,000円
- 60時間(履修証明対応)分の
セット受講料 *1 240,000円
- 120時間(履修証明対応)分の
セット受講料 *2 330,000円

*1 厚生労働省の特定一般教育訓練給付金の対象プログラムのため、
最大40%の給付金を得ることが可能

*2 厚生労働省の専門実践教育訓練給付金の対象プログラムのため、
最大70%の給付金を得ることが可能



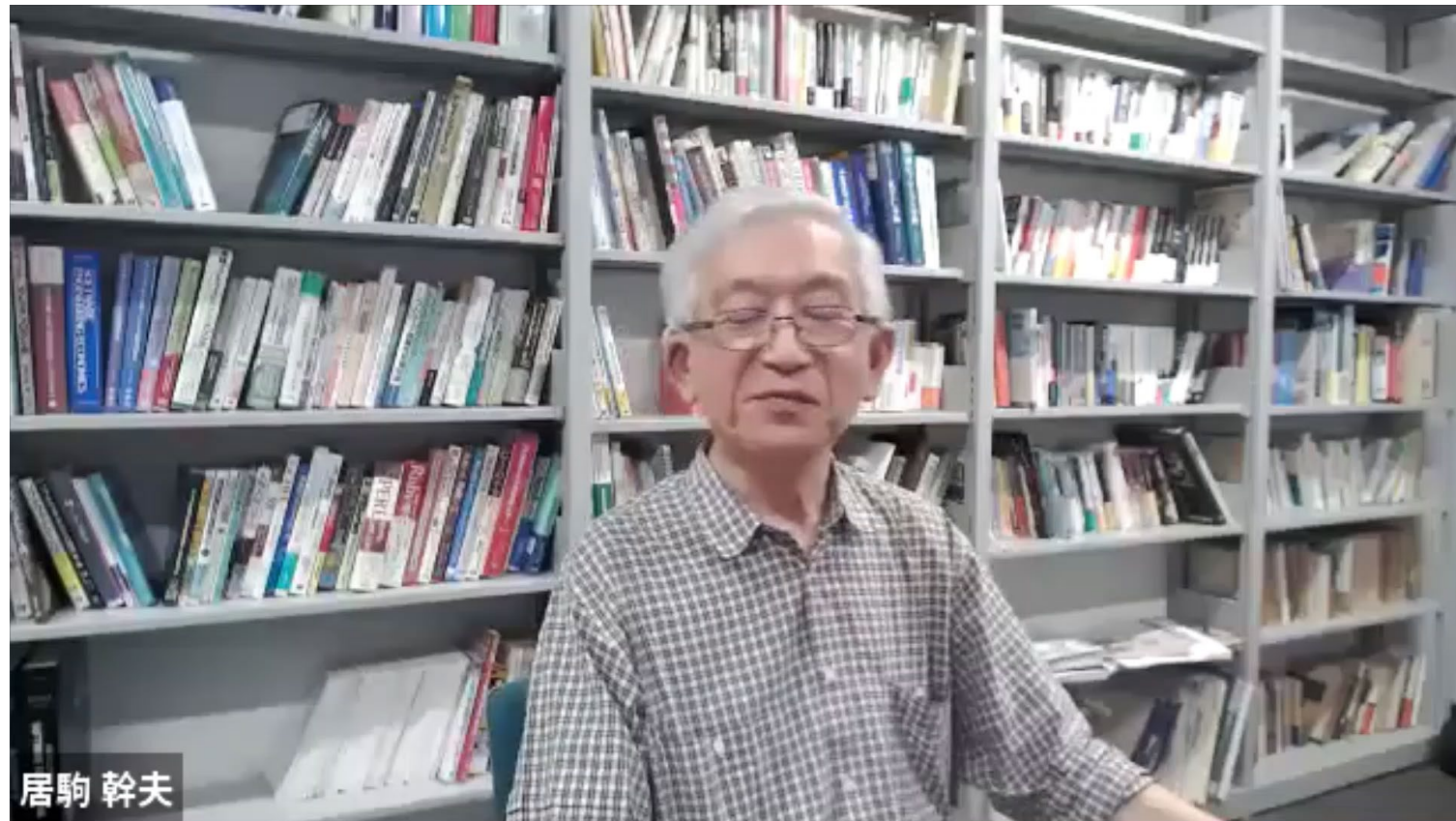
いろいろ条件
があるので、
注意が必要！

セクション 4 :

Q&A

ADPISA卒業生の感想

- atama+ の森本氏（ADPISA 1 期生）



よくある質問と答え（1）

Q ADPISA-Hは上級という位置づけで、ITを知らない人は受講できないのでしょうか。

A ADPISA-Hの多くの科目はITの専門家でなくても全く問題なく受講できます。科目ガイダンスを通じてミスマッチが無いようにします。

Q ADPISA-MとADPISA-Hの違いを教えてください。

A ADPISA-Mは技術的な側面がADPISA-Hより強いプログラムで、ADPISA-Hは、その技術を組織に適用し、ビジネスの価値を生み出す部分に重点を置いたプログラムです。

よくある質問と答え（2）

Q 年齢制限（上限）はありますか？

A ありません

Q 高卒（認定）でも受講可能ですか？

A 高卒または高卒認定で、大学を卒業した者と同様の職務経験を持つ人は受講可能です。

Q 説明会に参加できませんでしたが申込できますか

A できます

Q 「オンライン受講」とありますがオンデマンドですか？

A 科目により、リアルタイムとオンデマンドを組み合わせています。詳しくはシラバスを参照してください

よくある質問と答え（3）

Q 平日は仕事をしていますが受講できますか

A 可能です

Q 地方からの参加は可能ですか

A 可能です

- ただし下記の条件があります

- 対面講義のほうが教育効果が高い科目は、対面で講義を実施します。科目によって、できるだけ対面での受講を検討お願いします。
- 青山キャンパスに来られなくてもオンラインで受講できるような申込枠を、設けます（どうしても来られない方のみ）

Q 欠席したら録画の視聴はできますか

A 講義の種類により、できるものとできないものがあります。

Q 選考基準を教えてください

A

- 受講申込み書の履歴、受講の動機などから選考します。主な判断基準は以下です。
 - 出願資格を満たしているか否か
 - 学ぶ意欲が高く、開講期間の受講科目を履修することが可能か否か
 - ADPISA-H修了後、ADPISA-Hで得た職務遂行能力を活かすことができるか否か

ぜひADPISA-Hに応募ください。

付録

主な科目を紹介します。

- 情報システム学の基礎を学ぶ科目で、ADPISA-E, ADPISA-M, ADPISA-H共通の科目
- 概要
 - 情報システムと人間活動を一体としてとらえることで、価値の創造につながる広義の情報システムが可能
- 科目の内容
 - 情報技術の進歩と情報システムの目的の変遷
 - それぞれの時代で求められた人材について理解
 - これからの情報システム専門家が有すべき専門性

プロジェクトマネジメント系



- ADPISA-E, ADPISA-M, ADPISA-Hのそれぞれでプロジェクトマネジメントの基礎からプログラムマネジメントによる価値マネジメントまでを学ぶ
- プロマネ系の科目
 - プロジェクトマネジメントの基礎
 - 価値を実現するためのプロジェクトマネジメント
 - 情報システムのプログラムマネジメント
- ADPISA-Hでは、プログラムマネジメントと、見積もり技術を学ぶ



データサイエンスを活用した 情報システム構築



□ 背景

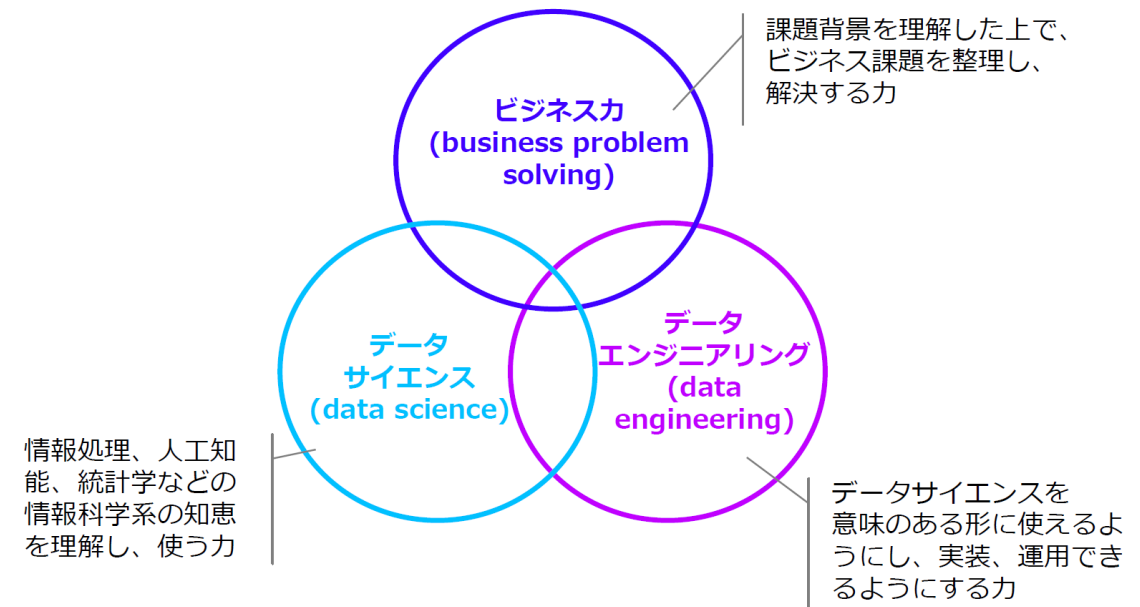
- ビッグデータや強力な AI 手法が利用可能
- 企業の変革，業務の刷新の決定者にデータサイエンス的なスキルが不可欠

□ ISアーキテクトへの期待

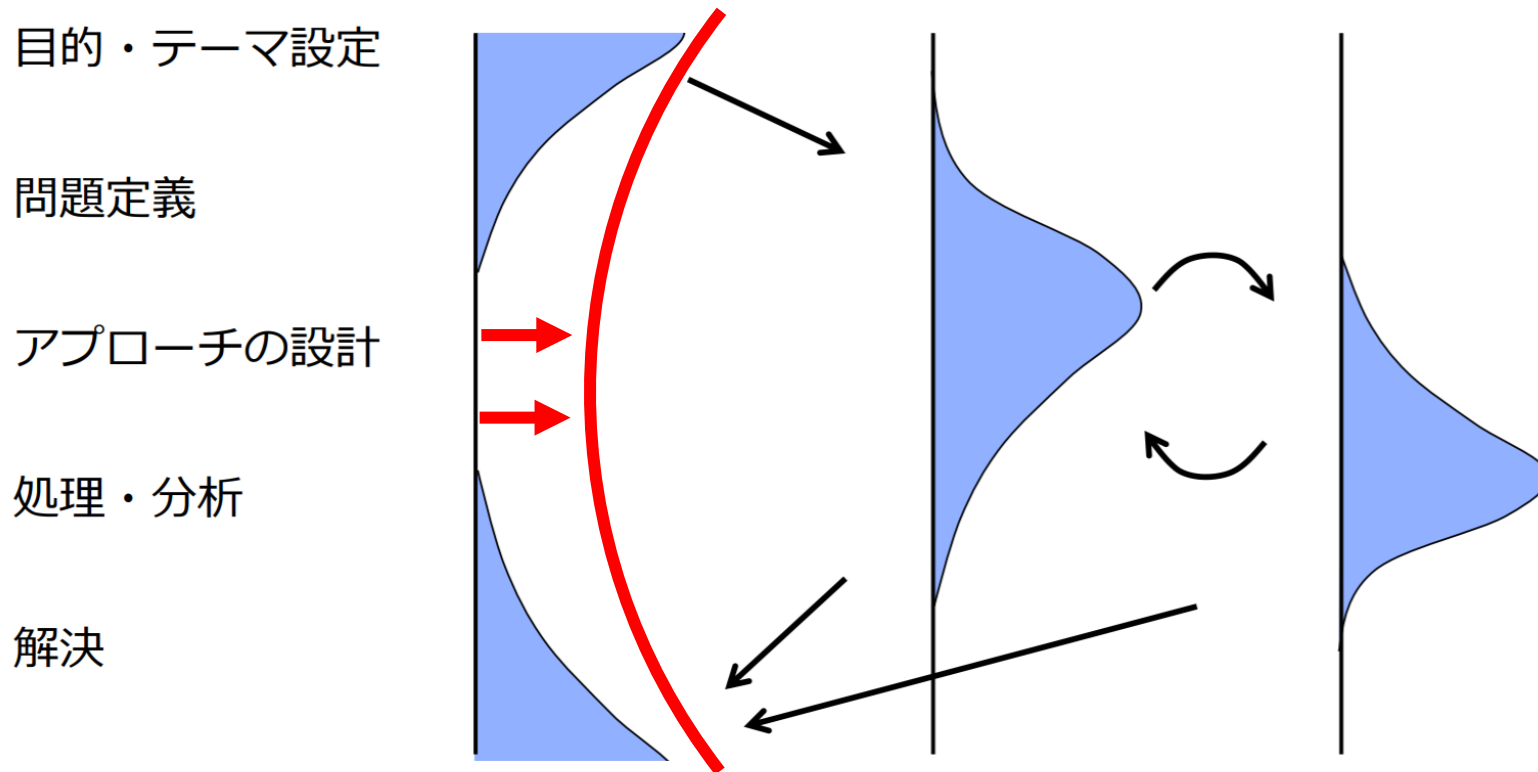
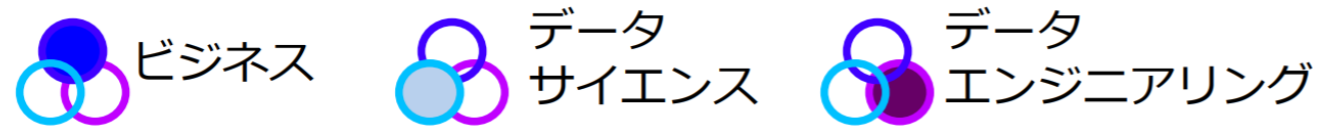
- ビジネスの当事者としての立場でデータ解析ができる
or (最低限) 解析結果の判断ができる

□ 講義概要

- 統計の基礎と、ビジネスでの適用に特化



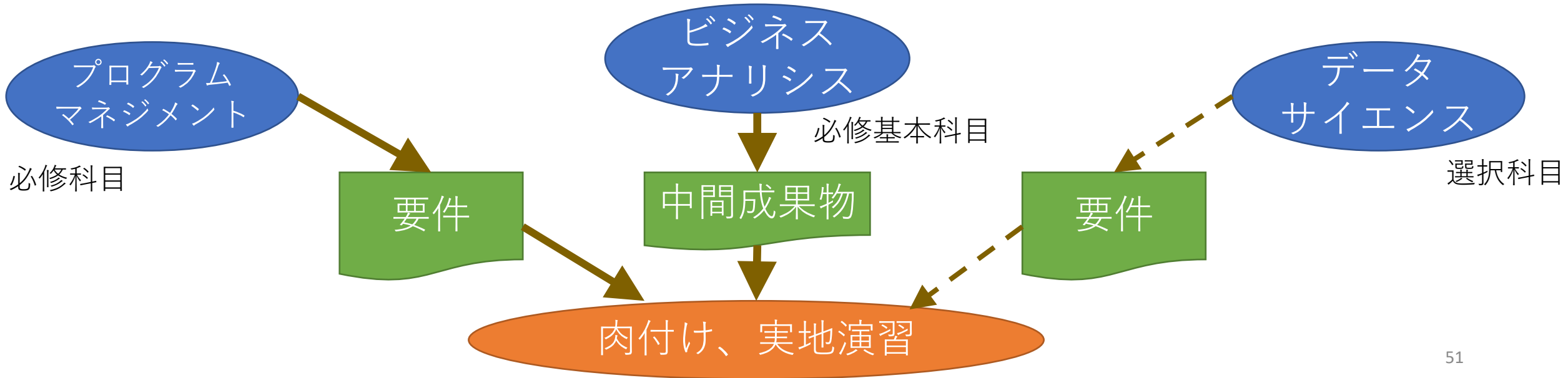
参考：ADPISA-Hでのデータサイエンスの注力点



情報システムアーキテクト実践研究



- 座学は無く、実地演習で試行結果を最終日に発表
 - ビジネスアナリシス科目の発表内容を実践研究での発表のベースにする
 - 他の科目で修得したことを使って、肉付けする
 - この内容でADPISA-Hの修了を判定する。



選択科目群



□ 背景

- 受講者それぞれの希望、能力、問題認識もさまざま

□ 科目の内容

- 指定された時間数、Udemy Businessの科目を受講
- 受講者の希望を元に受講者個人個人に対応した「ラーニングパス」を（コーチとの連携して）作成し、それに従って受講

タイトル	時間	19	20	21	22	23	24
～始めから効率よく学ぶ～ 基本情報技術者試験 最速 合格講座	10.9	1	1	1	1	1	1
はじめてのPython 少しずつ丁寧に学ぶプログラミング言語Python3のエッセンス	4.3	2	2	2	2	2	2
最新版: 基本情報技術者試験+応用情報技術者試験+Python+SQL 初心者からプロのエンジニアになる講座	54.0	3	3	3	3	3	3
【初学者向け】データ分析コンペで楽しみながら学べるPython×データ分析講座			4		4		6
プログラミング初心者でも安心、Python/Django入門講座	16.8	4	5	4			
【3日のできる】Django 入門 (Python 3 でウェブアプリを作って AWS EC2 で公開！)		5	6			4	4